

エレベーター更新工事 今たけなわ

計画通り、第二期工事着工へ

竣工は3月28日の予定



＜発行所＞
若葉台
第一住宅管理組合
坂本市代田4丁目7番30号
電話 049-283-7950
メール kanri@wakaba1.com
http://www.wakaba1.com/



高層棟の資材揚げ作業

1月7日の26号棟に続き、1月14日の17号棟と、予定通り工事に入ったエレベーター更新工事は、それぞれ、一定時間エレベーターを動かしながら新しい機器を取り付ける事前工事期間を経て、完全にエレベーターを止める本格工事期間に入り、その間、クレーン車による資材上げ作業も無事完了（1月22日現在）、この広報「わかば」128号が発行される頃には、予定通り、第一期工事が完了して、第二期分の工事に入っている事になります。そこで、広報部では、第一期工事を体験された方々から寄せられた感想の一端を以下にまとめました。

「たんだ、と思ったと話してくれた住民の方もおられました。さて、エレベーターに限られた時間しか動かないくんだり、工事の音が響き始め、やがて巨大なクレーン車がやって来て資材を屋上に上げる作業が始まる頃には、そんな不安を抱いていた方々も、次第に「仕様が無い。便利になる前の少しの辛抱だ」とばかり、覚悟されたようでした。エレベーター



4トンクレーン車

ボタンを押せば乗り降り自由だった毎日が、そうは行かなくなる日が続くなんで、毎日の出勤や買い物、ゴミ出し、などを思うと不安がいつぱい、というのが多くの皆さんの当初の正直な気持ちだったようです。その不安も、住む階によって、あるいは病弱か否かで、微妙に差があったようです。30年近く、そんな思いをせずに暮らして来れたのが、かえって幸せだった

「各階に用意された、休止用の椅子については、子どもが手すりの外をのぞく足台に使う心配がある、という声があったので、早速、その危険性の無いメーターボックス前へ移動されました。また、その後の体験をお知らせ下さい。」

「少なかったようです。中には、ちゃんと、初めから利用されて助かったという方もあり、「折角の運搬要員を持ち無沙汰にしておく手はない」と話しておられました。」



「ター完全停止の本格工事に入った頃は、初めてのこともあり、住民間の助け合いもあったため、荷物携行警備員の利用が

「お願いいたします。今後の工事においても、エレベーター完全停止の間、どうぞ遠慮なく、運搬員をご利用下さるようお願いいたします。」

「1月20日過ぎ現在、計画通り、極めて順調に推移しまして、当方から皆様方にてお願いするような事もなく、みなさま方からも特に苦情が出るといったこともありません。第一期分工事が無事完了しそうです。ただ、26号棟のエレベーターが完全停止となった初日に管理事務所様より手荷物運搬員2名の配置のPRが足りないせいか、住民側が遠慮しがちだという指摘があり、すく、雷掛けしてPRに力を入れました。」

「エレベーター更新工事については、昨年より、理事会様との4回の定例会議、並びに11月4日の住民説明会を経て、年明け1月7日より予定通り工事に着手できまして、ご協力誠に有りがたく、深く感謝申し上げます。」

「特定行政庁届出の段階において、川越土木事務所より、8階建てエレベーターの速度を速めるには、エレベーターピット（昇降路底部）に掛かる荷重（反力）に、構造上問題がないことを構造計算書等で証明するか、若しくは、現行のエレベーターと同等の荷重（反力）にする必要があるとの指導がありました。そこで弊社では、構造計算書による証明によらず、後者の、現行と同等の荷重（反力）を選択することとしました。その方法については専門的になりますので省略させていただきますが、川越土木事務所に対しては詳細に説明し、無事、当該工事への確認済証（適合する旨の通知書）を1月10日に発行してもらったことが出来ました。」

「この挨拶文が広報「わかば」に載る頃は、第一期分工事が終わり、第二期分工事に入るところですが、今後も、無事故・無災害にて工事を進めて行く所存でありますので、何卒ご協力ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。」

「日本エレベーター製造㈱ 山田 哲也」

「お陰様で工事は順調です」

年に4回発行されるこの広報「わかば」の、この号は、いわば新年号にあたります。そこで、昨年6月から新しい任務に就いて頑張っておられる役員のみなさんに、新しい年を迎えて、感じられていることの一端を一言、お寄せいただきました。

一歩一歩課題をこなす

理事長 加藤 一雄

新年のご挨拶は省略するとして、2007年度を振り返りつつ、これからの課題について一言述べたいと思います。

本年度は各部の部長の若返りを計り、ベテランの副理事長がアドバイスの体制を組み、総会で約束しました年間行事予定をほぼ順調にこなしてきております。

今期最大課題のエレベーター更新工事も計画通り進んでおります。工事はこれからが山場で、相互扶助の必要な機会にはますます増えると思われまますのでよろしくお願います。工事中の救急体制には、消防署の方も協力してくれることになっております。119番通報時に「エレベーターが工事中で使えない」とを一言いうようにすれば、救急車に加え、消防車も合わせて出動することも考えて、態勢強化を

自治会活動の目的

自治会長 芦田 武男

自治会活動は多岐にわたりますが、その重要な目的は、安心して暮らせる環境の維持向上に努める一方で、いつ起るかも知れない危険に対処するための物心両面の備えを固めることにあります。昨年の坂戸市内の建物火災は23件発生して、

火災は23件発生して、その内の1件は残念ながら8月に当団地で発生しました。幸い人命には関わりませんでした。火災が発生したときは人命に関わる危険性の他、火災発生住戸の被害はもとより周辺への影響は避けられず、特に階下の住戸は消火の水をもるに

私の課題

総務部長 松本 昭

定例の理事会や棟長会は言うに及ばず、コミニティ部や自治会に関わる諸行事など、あらゆる会議や集まりの準備に心掛ける、なによりもまず、その集まりに欠席することがないよう体調を整え、出席したらしたで、その会議が大過なく進行するよう気を使うなど、私に

積所にはネットが張ってあるため猫やカラスの被害は比較的少なく、他の地区の自治会から羨望の目で見られていますが、衛生委員やコミニティ部員の集積所立会いでゴミの分別が完全でなかったり指定以外のものが出さ

れていることも散見されています。以上、身近な問題を取り上げましたが今後、自治会活動の行事は、自分の身は自分で守る、自分の住環境は自分で作ることを前提に企画し推進しますので、一人一人の意識と行動により安全で快適な若葉台団地が維持できるよう皆様の積極的な参加と取り組みを期待します。

「たれ」とは、担務引継ぎの時の先輩の助言ですが、思えばホントにその通りで、みなさんが気持ちよく参加できるよう準備に心がけ、スムーズにその会議が進行するように心配りして、あまり目立たず、頼りにされる存在となるのが私の課題で、今後も大いに頑張りたいと思っています。

おしまいに、組合活動を陰ながら支えて下さっているご家族に感謝、感謝。

「樹木管理システム」整備完了

植栽部長 関 喜行

寒中御見舞い申し上げますが、寒い日々の連続ですが、皆さん如何お過ごしでしょうか？我が家では昨年末に「コタツ」を購入し（それまでは有りませんでした）、快適な日々を送って居ります。昨年と言えれば私にとっ

では、例年よりも少しは良かったかな？と思える様な年でした。また、理事になって三期目となり、植栽部作業や各種行事に植栽協力会のおっちゃん連中（おっと、失礼）と参加を重ねることにより、最初の頃の恐怖感は無くなり、作業等が楽しく行える様になりました（本当です）。さて、そろそろ本題に移ります。

今年度の総会で承認された予算の植栽内訳（議案書28頁参照）の中に樹木管理システムが計上されています。それが昨年10月より運用が開始されました。このシステムは8月に樹木調査を行い、そこで得たデータを電子ファイルにしたもので、樹木の位置や、名前を始めて、それらの管理に

コミュニティ活動・この半年

コミュニティ部長 松尾 宏

今年度も7ヶ月が経過しました。コミュニティ部上半期の主な行事を振り返って見ると、7月に「子供映画会」を実施しました。映画会に合せて「夏祭り向け焼鳥」の調理テストを行い、映画に集まった子供達にも味見してもらいました。映画も焼鳥も好評でした。夏休み期間中には「徒渉池開放」「ラジオ体操」を実施しました。そして8月、団地最大のイベントの夏祭りは、多くの皆様に協力頂き、天気にも恵まれ(猛暑)盛大に行われました。10月には「市体協体育祭」に参加しました。今回は地区対抗競技出場

フレールフレール 理事会

理事 松下 隆輝

理事長という重責から離れてはや7ヶ月、監事という任務は担っているものの毎週土・日は組合活動という理事長時代に比べ、かなり気持ちの上でゆとりが生じ、これまでに参加出来なかった植栽部の新入部員として、先輩たちが伐りおろす剪定材を束ねて縛るといっ

きな出来事も、後になつて大問題にならないかと、いつも心配りを怠らなかつたあの時を思うと、胃の神経を、相当痛めていたのかも知れません。空腹時の胃のシクシクした痛みが、今ではウソのようです。あの時の心臓血管の詰まりは、カテーテル手術によるステント(網状の金属人工血管)挿入により健康者と遜色がないほど体力を回復させてくれました。

妙なものですね。いまの監事の仕事でも、理事長時代には持てなかつた客観的な目で問題を捉える余裕が出てきたようです。上半期の監査でも、幾つか、今後の組合活動のありべき姿について指摘出来ることでした。同時に今更のように敬服されるのは、規約や細則など、この29年間に築き上げてきた先輩たちの成果です。それらを受け継ぎ、絶えず改革していかねければならない理事会のみならず、及ばずながら私も側面支援を怠らない所存です。

前号の広報「わかば」では、修繕委員会検討されてきた2008年度の給・排水管改修工事についてお知らせしましたが、これまでの検討作業をリードして下さったプレゼンターと、コンサルタントのお二方から、挨拶が寄せられましたので、ご紹介致します。

給・排水管改修工事に向けて

トム設備設計 柳下 雅孝

いま、日本の住宅施策は、「住宅をいかに長持ちさせるか」を最重要視する考え方が主流となってきました。この団地についても、例外ではなく、私どもも、100年以上存続出来る団地を目指し、修繕委員会のみならず、共々、中・長期計画を睨みながら、鋭意検討を進めてきました。その結果、部分(団地共用部分)

わが町を長く守るために

宮城設計一級建築士事務所 宮城 秋冶

せめて人の寿命くらいは建物を長持ちさせたいのです。日本では30年くらいで住宅を建て直してしまっています。人が成人して仕事も人並みに出来るようになります。所帯も持つて、人生これからという時期です。そんな頃に住宅を壊してしまうの、一世帯ごとに多額の住宅ローンを組んで家を普請したり、マンションを購入したりして、定年を迎えるまで返済に四苦八苦というわけでは、豊かな人生の礎(いしずえ)であるはずの家なのに、家のために人生の多くの時間を費やしてしまうのです。

住宅を80年間使っていくためには親から子へ譲ることも出来るし、さらに100年まで長持ち出来るなら孫の世帯に渡せることも出来るのです。住宅ローンを組んで家を普請したり、マンションを購入したりして、定年を迎えるまで返済に四苦八苦というわけでは、豊かな人生の礎(いしずえ)であるはずの家なのに、家のために人生の多くの時間を費やしてしまうのです。

②各棟内敷設給水管の共用部分(住棟共用部分)
③B及びEブロック住棟の台所系排水管(住棟共用部分・専有部分)
の3つを柱に、いま、設計図を作成しています。工事には断水などの影響が伴いますが、蛇口を回せばきれいな水が出て当たり前の日常を守るための工事ですので、ご理解とご協力をお願い致します。

特に、B及びEブロック住棟については、工事の対象が、専用住居内の壁の中に隠れて設置されているため、住居内に立ち入っての大きな工事の負荷が掛かりません。国土の半分が洪水で覆われるデルタ地帯の国や海水面の上昇で、島が冠水してしまい住民全員が移住を決めた南の島があるという時代なのです。多くのエネルギーを消費する私たちにも、その責任の一端があることを自覚しなければならぬでしょう。

大正5年(1916年)に日本で初めて建てられた鉄筋コンクリート造り7階建ての高層集合住宅が長崎県端島の軍艦島に現存しています。三菱端



本年度も集会所では、各種の会議の他に、美術の作品展や演劇などの文化的催しが行われて、好評を博しました。広報部では、部員たちで手分けして、それらの催し物を取材しました。作品展では自らも出展しての取材でした。

感動を呼んだ

「セロ弾きのゴーシュ」

広報部長 中田賢吾

昨年の11月11日(日) 迫った第6交響曲の公演の午後4時から、集会所で、公演された劇団お伽座の「セロ弾きのゴーシュ」は、演劇になじみのない多くの人たちに、あんな狭い空間でよくもまあ舞台劇が演じられるものだという素朴な驚きを



劇団お伽座公演「セロ弾きのゴーシュ」

与えたようです。原作は言わずもがなの宮沢賢治。ゴーシュというのは、下手クソというフランス語のもじりだそうで、町の活動写真館の座付きセロ弾きなのに、いかにも不器用で、自分だけのソロ演奏なら、文句は出ないが、オーケストラとなると、音を合わせるのが苦手。劇冒頭は、7日後に

追った第6交響曲の公演のために練習を重ねる案の団員たちと指揮者が、セロのゴーシュの不器用さに業を煮やしている所から始まる。と、まあ、話の筋を細かに紹介する余裕はありませんが、その後の話の展開で、ゴーシュのソロのセロ演奏が日ごろから周りの住民の癒しや心の支えになっていて、公演日までに何とかみんなに合わせた演奏が出来るようにと毎晩練習に励むゴーシュの家へ、その住民たちが(と言っても、三毛猫やカッコウ、子狸、ねずみ親子などが)現れて、セロ弾きのゴーシュをそれぞれの立場で励まし、知らぬ間に、自信を持たせて、演奏会を大好評に導くという筋が、ファンタジーと現実を織り交ぜた原作の味をうまく演劇的に表現していて、大好評でした。

劇団「お伽座」との「縁

17号棟806 樋口 仁

出会いは十五年以上前、東武線中板橋に劇団があった頃。一貫して、宮沢賢治とミヒアエル・エンデの「モモ」を上演していた。しかも賢治は原文に忠実に。演出はいったつてシンプルで仮面も有効に使われていた。

今は小川町から先の鉢形に拠点を移し、演目に落語劇なども加わり、地域の人々と交流を深めながら、年に数回の公演と出張公演を重ねている。昨年11月に集会所で「セロ弾きのゴーシュ」を演じてくれたが、あのギャラで、あの人数が鉢形から車で機材を運び、照明も凝っていて、普通益々好評

19号棟秋の展覧会

広報部 佐藤公子

11月3日と4日の2日間、19号棟秋の展覧会が集会所で開かれ、私も参加させて頂きました。この展覧会は、3年前「趣味を通しての交流やコミュニケーション作り

のきっかけ」になればと世話人会のメンバーが中心となって呼びかけられ開催されました。今年3年目、出品された作品は、絵画・書・写真・パッチワーク・工芸(竹内主任)など贊助作品も含めて34作品にのぼり日頃の成果が披露されました。作品の中には、1回目2回目とお元気で書を出品されていた方が遺作の形で展示という悲しいこともありまし

た。それでも浮世絵の模写や油絵の風景画、周辺の風景写真、陶芸品など趣味と言っても1年間研鑽を積まれた作品となっていました。今回は子ども



この日は団地の行事の都合で2日間でしたが、2日目はお菓子や飲み物を持ち寄り作品のことなど子どもたちと子どもたちを大人たちと子どもたちを繋いでいるのを感じた温かい場となりました。最後に子どもたちの作品の詩を紹介しします。

地球は青い
地球は青い
ぼくたちのいるのは
広い地球
でも地球は地球温暖化
になりそうな状況
なんとか地球を救え
ないだろうか

はじめてのケーキ作り

(聞き書き) 広報部 仁瓶 悟

集会所有効利用企画として松尾コミニティ部長の発案で11月18日(日)午後1時から4時、お菓子教室が開催されました。講師は某有名調理師学校の先生で、28号棟にお住いの若生毅先生です。参加者は大人12人、親子4組の計20名。

メニューは「バナナの スポンジケーキ」「ムー ス・オー・マロン」期待と不安の複雑な気持ちで当日は松尾部長の奥様で管理栄養士でもある松尾留美子さんによる栄養のワンポイント講座もあり、普段から気をつけた食事のポイントや本日の材料についての話などをさせて頂きました。



チョコレートの薄づくり

参加したのですが、まず配られたレシピを見てみなさん不安いっぱい「大丈夫かな? 難しそうだなあ」でも周りを見渡せばみんな知り合いばかりで、

先生方ありがとうございます。次回はパレンタインメニューを教えてほしいとのリクエストがありました。

編集後記

今度の号は、広報部員みんなで原稿依頼や写真撮影など手分けして頑張りました。原稿も10人を超える方々に依頼、みなさん、快く寄稿下さいまして大変有難く感じました。エレベーター工事はまだ続きますが、生活上お気付きの点は是非、広報部にも、ご一報下さるようお願いしております。